

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 5月 7日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1870101175
法人名	財団法人 松原病院
事業所名	グループホームぬくもり
所在地	〒910-0017 福井市文京2丁目6-10 (電話) 0776-28-7253

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成21年4月16日	評価確定日	平成21年5月26日

## 【情報提供票より】(平成 21年 2月 24日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 3 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 3 人	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	3 階建ての	3 階 ~	3 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷 金	有( 円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	200 円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要( 2月 24日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	3 名	要介護2	5 名		
要介護3	1 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.3 歳	最低 69 歳	最高 97 歳		

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	財団法人 松原病院(歯科を含む)
---------	------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域に根ざしている母体病院の近くに立地し、在宅ケアを中心にサポートされている福祉の総合施設「みどりの森」の3階に開設されているグループホームです。ホーム内は大変明るく元気な利用者と明るい職員に出迎えます。管理者は、利用者一人ひとりの希望や意向にそってしなくてはいけないケアではなく、利用者が求めているケアや出来る事を中心にした支援を大切にされています。職員は、時間をかけた朝礼や職員会議などで何でも話し合い、チームワークを大切にケアプランを基に利用者本位の個別ケアが実践されています。利用者はお互いに助け合いながら、それぞれの役割や楽しみ事、また散歩や電車に乗っての外出などを通して生き活きと過ごされています。また、家族との関係も密であり、家族会等でホームに来訪された際には何でも話をするように努められ、連携が取られています。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	センター方式の活用や出来る事をケアプランにあげ、それにそったケア、モニタリングとアセスメントの連動など利用者一人ひとりのケアについて、職員間で話し合いながら改善されています。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価については、職員の意見を聞きながら、管理者と常勤職員が主に作成されています。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	下階にある同法人のグループホームと一緒に運営推進会議を実施されていますが、昨年の12月が最後の開催となっています。会議には、家族、地域の方、地域包括支援センター職員が参加されており、地域の情報を得る場や家族の意見を聞く場となっています。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	玄関にご意見箱を設置しています。家族がホームに来られた際には、職員は出来るだけコミュニケーションを図るように努めており、年に2回家族会を実施し、その際に意見を得る機会としています。得られた意見と職員間で話し合っ出された回答については、全家族に書面にて報告しています。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入しており、回覧板にて地域の情報を得ています。地域行事のお祭りの際ははみこしに来てもらっています。また、近所の理髪店の利用や散歩を通して近所の方と交流出来るように努めています。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	母体法人の理念・方針・21年度のテーマを基に、福祉部としての方針・テーマ・目標があり、さらにそれを基にグループホーム独自のテーマ・目標が職員間で考えられ、掲げられている。利用者の目線で考える事を目標に、その人らしい生活としてこれまでの環境を継続出来るように支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員間で話し合っ、ホームのテーマ・目標を掲げており、時間を掛けて行う朝礼や職員会議での確認、日々使用する記録ファイルの最初のページに理念・目標を記載し、いつでも見れるよう意識付けを行っている。理念や目標等については、玄関に掲示されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しており、回覧板にて地域の情報を得ている。地域行事のお祭りの際はみこしに来てもらったりしている。また、近所の散髪屋さんの利用や散歩を通して近所の方と交流出来るように努めている。	○	併設のグループホームとの連携でバザーに近所の方が来られたり、ボランティアの方との交流を図っている。今後、ホームに来て頂ける関係づくりや近くの幼稚園、小学校等とのつながりを通して地域との関わりを増やしていく事が期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	センター方式の活用や出来る事をケアプランにあげ、それにそったケア、モニタリングとアセスメントの連動など利用者一人ひとりのケアについて、職員間で話し合いながら改善されている。今回の自己評価については、職員の意見を聞きながら、管理者と常勤職員が主に作成されている。	○	自己評価を実施する事によって、日々のケアについての気付きや振り返り、自信にもつながるため、今後職員全員で取り組まれる事が期待される。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	下階にある同法人のグループホームと一緒に運営推進会議を実施されているが、昨年12月が最後の開催となっている。会議には、家族、地域の方、地域包括支援センター職員が参加されており、地域の情報を得る場や家族の意見を聞く場となっている。	○	参加者の欠席等により開催が出来ていないが、今後は2ヶ月の開催の他、家族会を通して家族の会議への参加を更にお願するなど検討されている。定期的な会議の開催や多方面の参加者の呼びかけ、参加を通して、サービスの質の向上が図れる事が期待される。

グループホームめぐもり

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	直接市役所に出向いて、わからない事を聞きに行ったり、電話で相談をしている。市主催の研修にも参加している。また、2ヶ月に1回介護相談員の受入れも行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族がホームに来られた際や電話にて日頃の暮らしぶりを伝えており、毎月請求書を送付する際に担当者から手紙や写真を同封している。季刊誌として写真入りの陽だまりも発行している。金銭管理については、家族に出納帳の確認後サインをもらっている。職員紹介は家族会にて行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。家族がホームに来られた際には、職員は出来るだけコミュニケーションを図るように努めており、年に2回開催される家族会は意見を得る良い機会となっている。得られた意見と職員間で話し合っ出された回答については、全家族に書面にて報告している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	この1年以内に管理者の交代があったが、管理者は馴染みの関係でのケアを大切に考えており、職員の離職を軽減出来るようにコミュニケーションを図り、チームワークの重要性について話し合っている。職員のストレス回避についてのアンケートも取っている。新しい職員がケアに入る場合は、日勤帯でフリーとして1ヶ月間入り、利用者との馴染みの関係づくりに配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修については、年間計画があり、また、毎月みどりの森の中で勉強会や委員会があり、出来るだけ参加している。実践者研修や市主催の外部研修にも参加している。研修参加後は報告書を法人に提出し、他の職員へ報告と資料の回覧を行っている。	○	今後、報告書についても資料と共に他の職員に回覧し、ホームでも保管する事が期待される。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福井県のグループホーム協議会に加入し、会議に参加したり、ケアマネジャー研修にて交流を図っている。今後職員の交換研修やホームの見学、勉強会の開催を検討している。また他施設からの研修や実習の受け入れも行っている。		

グループホームめぐもり

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	出来るだけ利用者本人にホームの見学に来て頂き、雰囲気をもてもらえるようお願いしている。センター方式を活用し、本人、家族より聞き取りを行いその人を知るようにしている。ホームに入居後は家族に多く来訪して頂いたり、電話で話しをして頂くなど協力を得ながら支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と一緒に過ごす中で、料理の味付けや調理の方法を学ぶ他、トラブルがあった際の物の考え方を教わったり、育児についての話を聞くなど、職員は利用者を人生の先輩として尊敬し、互いに支え合う関係を築いている。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を中心に本人、家族から聞き取りを行い、また日々の関わりの中から本人の思いを把握するようにしている。コミュニケーションが難しい方については、反応や態度、しぐさをみながら必ず個人記録にあげて、モニタリングにつなげて見極めるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式にてアセスメントをし、本人、家族の希望を聞いて、担当職員を中心に職員全員の意見や必要があれば医師の意見を取り入れながら、利用者が今出来る事を中心とした一人ひとりにあったケアプランを作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	担当者はセンター方式にてアセスメントを実施し、情報の確認を行っている。3ヶ月に1回カンファレンスを実施しており、開催日までに職員全員の意見を求め、評価につなげ、確実なケアプランの見直しを行っている。ケア記録についてもプランにそった詳細な記録がなされている。		

グループホームめぐもり

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の状況に合わせて受診や馴染みの美容院の継続、これまでの生活の中で大切にされていた習慣であるお寺に行ったり、お茶会に行ったり、ふるさと訪問や馴染みの場所へ行くなど様々な支援をしている。また、希望に合わせてマッサージの訪問も支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の希望を聞いており、半分の利用者はこれまでの主治医の受診を受けている。往診して頂ける医師もおり、緊急時には電話で指示を受ける体制がとられている。また、併設施設内には看護師がおり、日中は連携がとれる体制になっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームの考えとして在宅復帰を目指した介護を基本とされており、入居の段階で重度化した際や医療面に対しての予測できる事態について家族と話し合うようにしている。急な変化があった場合は、医師や家族と連携を図るようにしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	対応や言葉掛けについては、会議で職員と話し合っており、常に一人ひとりに合った対応を心掛けている。個人情報等については、鍵付きのキャビネットに保管し、他の人の目に触れないように配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員にフリーの方を出来るだけ配置し、1日の流れの中で一人ひとりの出来る事を前もって準備しながら自然な流れで行動出来るように支援している。利用者はそれぞれのペースに沿って思い思いに過ごしている。		

グループホームめぐもり

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の希望を聞きながら、本や広告、冷蔵庫の内容を見て決定している。週に2回買物に利用者と一緒に行き、調理や味付け、配膳、後片付けを一緒に行っている。一品すべてを作る利用者もおられる。職員は利用者と一緒に楽しく会話しながら食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴を支援しており、10時から16時半の日中が基本となっている。利用者からの希望にそって夜間入浴をプランにあげて支援する等の対応も行っている。また入浴拒否の方については、データをとり成功例と失敗例を検討するなどの工夫をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの出来る事や行ないたい事を中心に、裁縫を使った作品作り、ぬり絵や計算ドリル、はり絵など個別支援をしている。ホーム内の掃除や花を生けたり、シュレッダー作業、野菜や花への水遣りなど役割の支援も行なっている。また、散歩や買物、外出等の気晴らしの支援も行なっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常の買物や散歩の他、季節毎に弁当持参で外出したり、電車を利用して行く事もあり利用者の楽しみとなっている。また、定期的に外食にも出かけており、近所の喫茶店にも行くなど様々な支援がなされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵を掛ける事の弊害を理解しており、利用者の状況等により鍵をかける事もあるが、日中は基本的に鍵を掛けないケアを実践している。利用者が外出を希望する際は職員と一緒に歩くようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署立会いの下、併設ホームと一緒に年に2回夜間を想定した避難訓練を利用者とともに実施している。地域への協力の働きかけについては、近所に住んでいる家族にお願いしたり、運営推進会議で相談を行なっている。		

グループホームめぐり

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は品数も多く、栄養バランスがとれた食事を提供されている。摂取量については、全量摂取を基本としており、食べられていない際には必ず記録を行なっている。水分量については、毎日記録している。一人ひとりの状態に合わせて、あら刻みにしたりほぐして提供している。今後は栄養士にチェックを受ける予定になっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には花が生けられ、ホーム内は大変明るく、日当たりの良いテラスには多数の花やみどりが置かれている。また利用者が作られた裁縫の作品や季節の飾りが飾られている。腰を掛けたり、少し離れて休める和室もあり、キッチンもオープンで使いやすく、居心地良く過ごせる空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には手作りの温かみのあるのれんや表札が掛けられており、本人、家族と相談しながら、大切にされていた仏壇や人形、家族の写真を持って来られたり、今まで使われていたベッドや姿見を持って来られている。		